

こんにちは婦人会「さくら」です

寒中お伺い申し上げます。松の内の賑わいも過ぎ、あっという間に1月も最終週になりました。大寒の日を境に、大寒波到来で寒さも一層厳しく冷え込んでおります。今朝は、深城池も氷が張っていたようです。ところで、大寒の日に産み落とされた卵は『寒たまご』とも呼ばれていて、風水的には金運をアップする効果があるといわれています。実は編集人、昨年寒たまごを食べて、密かに宝くじを買ったのですがまったく効果はありませんでした。今年こそ！・・・

～婦人会・暮らしのエッセンス～

今年は申年。「猿は神の使者」という冊子を目にしたので、例のごとく調査してみました。古来日本では、猿は神の使者と信じられています。「サル」と「去る」の語呂合わせから災いを取り去る縁起物として知られています。また、サルは馬を病気から守る動物として信じられ、室町時代には、猿を馬屋（厩）で飼う習慣があったそうです。あの有名な日光東照宮には神馬（白馬）の馬屋があり、その長押^{なげし}には、馬の無事を願って「馬を守護する」とされる猿の彫刻が施されています。中でも三猿はよく知られている「見ざる」「聞かざる」「言わざる」の三態を現し、世渡りの大切なポイントを暗示した傑作といわれています。長押に猿の彫刻がなされた厩舎には、現在でも白馬が午前10時～午後2時までつながれているそうです。



今年もよろしくお願い申し上げます。

婦人会「さくら」
平成28年1月26日
第168号